

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	京都府		学校名	京都府立南丹高等学校	
人権課題	子ども（いじめ）	対象学年・ 取り扱った教科等	第1学年 人権学習（LHR）	時数等	3時間
目標・人権教育 のねらい	対立が激化する要因に気づき、対立の激化を回避する方法を考え、互いを尊重してより良い関係を築こうとする態度を養う。				
実施した内容	ワークシートとスライド資料を用いて、対人関係の中で起こる対立を例示されたものを元に、激化しないためにどのようにコミュニケーションを取ることが大切か考えた。				
工夫した点	対立を激化させる要因（決めつけ、過剰な一般化、矮小化、無視、突き放し、過去の蒸し返し等）を、生徒自身に整理させ、具体的な言葉を考えさせた。考えさせる時、体育祭や文化祭等の身近な取組の中で起こりそうなことを具体例とするようにした。生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、事後の振り返りの機会を持った時も、身近なことをイメージできるように説明しながら、振り返りを行った。				
他教科との 関連	全ての教科において、協働的な学習の他、日常の様々なコミュニケーションの場面に関連させることができた。				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「社会には様々な人権問題があることを知ることができた。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立を激化させる6つの要因に関わる具体的な態度や言動について考えることができた。 * 価値的・態度的側面：「正義・自由・平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の態度や言動を客観的に捉えられていることが感想から感じられた。 * 技能的側面：「人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能」 <ul style="list-style-type: none"> 「対立的問題を非暴力的で、双方にとってプラスとなるように解決する技能」 ・ 相手がどのように感じているか考え、相手の意見も聞いて行動（発言）することを意識するようになった。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	障害のある人の人権問題	対象学年・ 取り扱った教科等	第2学年 人権学習（LHR）
時数等	3時間		
目標・人権教育 のねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 障害のある人をめぐるさまざまな問題についての講演等を通じて、障害のある人についての理解を深める。 * 自己や他者を尊重する豊かな感性を育て、また人権問題を自らの問題として捉え、解決に向けて実践する態度を育てる。 		
実施した内容	<p>地元の元障害者施設長で全国身体障害者施設協議会顧問をしている方から、「尊び合い、共に生きる人権社会を築こう」という演題で講演を実施し、その後、アイマスクを使用して誘導する体験と、誘導される体験をする。</p>		
工夫した点	<p>講演及び体験において、生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、事後の振り返りをホームルーム等で行った。その時、アイマスク体験時の感想を元に、今回は視覚障害について学んだが、様々な障害のある人が社会にはおられることを、担任の経験を元に伝えた。また、「障害の社会モデル」について、再度考える機会を作るため、担任から語りかけを行った。</p>		
他教科との 関連	<p>第2学年選択科目「生活実践」での車椅子体験授業につなげた。</p>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある人をめぐる様々な問題について知ることができた。 * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> 「多様性に対する開かれた心と肯定的評価」 「人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度」 ・ アイマスク体験を通して、障害のある人の思いを理解できた。（人権学習総括意識調査で約6割が回答） * 技能的側面：「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分も誰かの役に立てるよう、自分にできることをやりたいという感想が、終了後のワークシートに多く記載がある。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校		
人権課題	同和問題（部落差別）	対象学年・取り扱った教科等	第2学年 人権学習（LHR）	時数等	4時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 現代においても未だ差別が根強く残っている問題として、同和問題を正しく認識する。 * 将来、自分や身近な人が遭遇する可能性があるという意味で、結婚差別が身近な問題であることを理解する。 * 偏見や差別意識に起因するものの見方にとらわれず、自分で考え行動できる力をつける。 				
実施した内容	講義（被差別部落の歴史）を受けた後、府内の当事者の方に講演していただいた。				
工夫した点	<p>講義については、オリジナルのスライド教材を使用して、理解を図った。また、全員に色のカードを持たせ、クイズ形式の質問に全員が回答する方法を取り入れ、自分が考える問題という意識を持たせるよう工夫した。講演において、生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、事後の振り返りの機会を持った。その際、「もし自分自身が人権問題に直面したらどうするか」を考える機会を作った。</p>				
他教科との関連	日本史での封建的身分制度、解放令、全国水平社を説明する際に関連させた。現代社会では平等権についての学習に関連させた。				
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 思い込みや偏見から差別が生まれる仕組みが分かった。（人権学習総括意識調査で3割強が回答） * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> 「人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度」 ・ 見て見ぬふりをせず、自分にできることを考えたいや自分のこととして考えたいという感想が事後の感想に多くあった。 * 技能的側面：「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」 <ul style="list-style-type: none"> 「人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見極める技能」 ・ 型にはまった考えや思い込みは危険だと思った。（人権学習総括意識調査で約半数が回答） ・ 当事者の方の講演が考えを深めることに役立った。（人権学習総括意識調査で7割以上が回答） 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	同和問題（就職差別）	対象学年・取り扱った教科等	第3学年 人権学習（LHR）
		時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 就職差別の学習を通して、自他の人権を大切に生き方や社会のあり方について考えを深める。 * 就職差別に対するこれまでの取り組みの経過を知ることによって、改善への展望を持ち、人権侵害を許さない態度の大切さを学ぶ。 		
実施した内容	<p>仕事や会社を選ぶに当たってどんなことを大切にしたいか考え、就職試験の目的について考えた。模擬面接の場面を体験し、「不適切な質問」をピックアップし、不適切である理由を考えた。その後、近畿高等学校統一用紙制定の歴史について学習した。</p>		
工夫した点	<p>生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、事後の振り返りの機会を持った。その際、一人ひとりが差別を見抜き、立ち向かう人間になれるかが問われていることを再確認する機会とするため、人権新聞に書かれた感想を素材として、担任が生徒に投げかけながら、振り返りを行った。</p>		
他教科との関連	<p>現代社会「労働者の権利と労働問題」と関連させた。</p>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職差別の改善に向けた取組の経過や近畿統一応募用紙について理解できた。（事後の感想より） * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> 「正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」 ・ 何が就職差別に当たるのか、考える様子が見られた。 * 技能的側面：「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職試験の面接時、不適切な質問に対し、回答できないと返すことができた。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	外国人の人権問題	対象学年・ 取り扱った教科等	第3学年 人権学習（LHR）
		時数等	4時間
目標・人権教育 のねらい	<ul style="list-style-type: none"> *外国人をめぐるさまざまな人権問題についての講演等を通して、人権問題について理解を深める。 *自己や他者を尊重する豊かな感性を育て、また人権問題を自らの問題として捉え、解決に向けて実践する態度を育てる。 		
実施した内容	<p>「外国人の人権」をテーマにした生徒向け人権新聞を活用して、在日韓国・朝鮮人の歴史について学ばせた後、当事者を講師に招いて「在日コリアンの方の思いから学ぶ」という演題で講演を実施</p>		
工夫した点	<p>事前学習では、生徒向け人権新聞において、多くの韓国・朝鮮人が日本に住んでいる理由を理解させ、ヘイトスピーチの問題点について考えさせた。講演では、生徒の集中力を維持する目的から、適宜クイズ形式の質問を取り入れるよう工夫した。事後学習では、生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持った。</p>		
他教科との 関連	<p>現代社会の参政権の学習に関連させた。また、政治・経済や世界史の授業において、朝鮮戦争に関わる学習に関連させた。</p>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在日韓国・朝鮮人の歴史や現状について理解できた。（事後学習の感想より） * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> 「多様性に対する開かれた心と肯定的評価」 ・ 当事者の講演を通して、人権問題の解決のため知ることの大切さに気付き、他者のことも自分のことも大切にし、何ができるか考えようとする意識を持つことができた。（人権学習総括意識調査において講演を通して意識が高まったと4割以上が回答） * 技能的側面：「人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能」 <ul style="list-style-type: none"> 「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」 ・ 思い込みや偏見を持たずに、その人自身を見て行動しようとする姿勢が生まれた。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	ハンセン病問題	対象学年・ 取り扱った教科等	第1学年 地歴・公民科 公共 第3学年 地歴・公民科 現代社会
時数等	5時間		
目標・人権教育 のねらい	<ul style="list-style-type: none"> * 日本国憲法とのかかわりに留意しながら、現代のさまざまな人権問題を自らの問題として捉え、理解を深める。 * ハンセン病問題のこれまでの取組の歴史や実態について学び、偏見や差別意識が生まれる原因を考えた上で、解決に向けて実践する態度を養う。 		
実施した内容	<p>第1・3学年の地歴公民科において、日本国憲法における平等権の単元の中で、「ハンセン病問題」を扱い、ハンセン病の歴史的経過や患者を取り巻く現状、差別解消に向けた取組について学習した。また、ハンセン病に関わる映像教材（河瀬直美監督、『あん』、2015年等）を視聴した。</p>		
工夫した点	<p>身近に感じる事が少ない差別問題であることから、授業では、オリジナルのスライド資料を作成して、図や写真等の視覚教材を使用して、ハンセン病についての理解を深められるように工夫した。また、映画『あん』を視聴して、生徒の興味・関心を引き出し、映画の各場面で人権侵害や差別に関わるような問題とされる言動について、生徒に問いを投げかけながら身近にイメージできるように考えさせた。</p>		
他教科との 関連	<p>保健の「感染症」の学習と関連させた。</p>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「人権の発展・人権侵害に関する歴史や現状に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 差別解消に向けた取組の歴史と現状について知ることができた。 * 価値的・態度的側面：「正義・自由・平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者、元患者、家族への偏見や差別意識の解消を目指すことの必要性を理解し、何ができるか考えた。 * 技能的側面：「人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見極める技能」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報に流されることなく、正しい理解のもと行動しようとする意識が生まれた。 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校		
人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	第1学年 人権学習（LHR）	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	インターネットやSNSの危険性について知識を深め、危険を回避する力を身に付ける。				
実施した内容	人権啓発ビデオ 「インターネットと人権 ～加害者にも被害者にもならないために～」（法務省）を視聴する。				
工夫した点	特にVTR後半で繰り返されるいじめについて、その原因と問題点を考えさせられるように、自分自身がネットで経験した事象をワークシートに記入させながら考えさせる形で展開した。生徒がワークシートに記入した感想等をまとめて生徒向け人権新聞を発行し、振り返りの機会を持った。DVDの視聴について、途中で動画を止めて解説することも考え、一気に見てしまう場合と途中で止めながら解説する場合の2つの展開案を提示し、クラスの状況や生徒の状況により、適宜利用できるようにした。				
他教科との関連	「社会と情報」の情報モラルの単元と関連させた				
事業成果	<p>* 知識的側面：「人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやSNSの危険性について理解を深め、自身の利用の仕方を振り返ることができた。 <p>* 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「正義、自由、平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度」 「人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度」 ・個人情報の扱い方や危険を回避する方法を理解し、自分の権利を守り、他人の権利も守る行動を意識するようになった。 ・事実ではない情報が拡散された当事者の思いを想像できた。 <p>* 技能的側面：他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動が、どのような影響を与えるか、考えて行動する意識が生まれた。 				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	集団の中での人間関係づくり	対象学年・ 取り扱った教科等	第1学年 国語科 現代の国語、言語文化
時数等	5～6時間		
目標・人権教育の ねらい	<p>評論や小説、古文の学習、調べ学習やプレゼンテーションの協働的な活動を通して、人権社会の実現に関わる想像力、共感性、感受性、コミュニケーション技能などの育成を図る。</p>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> * 各学習で、単元ごとに「自分が何を学んだか。自分がどのように考えたのか。」を振り返った。 * SDGsについて調べ学習に取り組んだ後に、グループ内でプレゼンテーションを行った。 * 「目的に合わせて表現を工夫する」という単元で、条例や校則をすべての人にも分かりやすいように表現する手法を学んだ。 		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> * 小説や古文では、登場人物の行動や思いと自己の考えを比較し、他者の多様な異なる価値観から、互いの相違を認められるようにした。 * プレゼンテーションにおいては、他者に伝える発信力はもちろんのこと、他者の発表を聴き、多様な考えに触れられるようにした。 * 「目的に合わせて表現を工夫する」という単元では、インクルーシブの側面も踏まえて、多様な他者にも伝わるような視点で指導した。 		
他教科との 関連	<p>1年「産業社会と人間」での夏季自主体験学習の発表準備・発表に繋げた。その他の教科において、協働的な学習の他、日常の様々なコミュニケーションの場面に関連させることができた。</p>		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「自尊感情・自己開示・偏見など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識」 ・学習活動を通して、人権問題を含めた社会に様々な課題があることを知ることができた。（年度末のアンケート調査結果44%） * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 ・他者の意見に触れることで、感じ方や考え方は、人それぞれ違いがあってよいと思うことができた。（年度末のアンケート調査で約50%が回答） * 技能的側面：「人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できる諸技能」 「能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」 「複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能」 ・自分とは違う意見にも耳を傾けるとともに、自分の意見も相手に伝えることができた。（年度末のアンケート調査で42%が回答） 		

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・指定都市名	京都府	学校名	京都府立南丹高等学校
人権課題	集団の中での人間関係づくり	対象学年・ 取り扱った教科等	第1・2・3学年 保健体育 (保健は第1・2学年)
		時数等	実技：年間を通して 保健 8時間程度
目標・人権教育のねらい	体育（実技）および保健の授業を通して、仲間と協力し合い、他人を思いやる態度を養い、人権社会の実現に関わる想像力、共感性、感受性、コミュニケーション技能などの育成を図る		
実施した内容	体育では、サッカー・バスケットボールなど複数人で取り組むチームスポーツに取り組んだ。テニスなどの個人種目では、他者と協力して練習する機会を設けた。 保健では、応急処置や喫煙、出産や性に関わる内容について学習した。		
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> * 体育のチームスポーツでは、他者と協力しながら取り組むため、相手のことを考え、思いやる気持ちが大切であることを意識づけさせるように声かけ等を工夫した。例えば、テニスの授業では「ラリーを続ける」際にも、相手の打ちやすい球を打つことが必要であることから、相手のことを考えることの必要性を伝えた。 * 保健の授業では、応急処置や喫煙の副流煙の内容において、自己のことだけではなく、他者のことを思いやる必要があることを指導した。また、性を扱う内容の際は、性意識や性行動（ジェンダー）の内容にも触れながら指導した。 		
他教科との関連	「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」をはじめとして、その他の教科において、協働的な学習の他、日常の様々なコミュニケーションの場面に関連させることができた。		
事業成果	<ul style="list-style-type: none"> * 知識的側面：「自尊感情・自己開示など、人権課題の解決に必要な概念に関する知識」 <ul style="list-style-type: none"> ・自分も他者も大切な存在という考え方をする基本ができた。 * 価値的・態度的側面：「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」 <ul style="list-style-type: none"> ・他者の思いを考えた行動や、配慮する姿勢が見られるようになった。 ・自分と同じように相手のことも大切にしようとする姿勢や考え方や感じ方は人それぞれ違いがあってよいと受け止めることできた。（年度末のアンケート結果で約45%が回答） * 技能的側面：「人間の尊厳の平等性を踏まえ、互いの相違を認め、受容できる諸技能」 <ul style="list-style-type: none"> 「他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性」 「能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能」 <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見を聞いたり、異なる主張がある時、互いにプラスに向かうような解決方法を模索する様子が見られるようになった。 		